

## 佐久間ダム先進事例

# 官民連携で堆砂対策

雨畑ダムの土砂除去について日本軽金属は、同社独自の解決を模索するが、官民連携で堆砂問題に取り組み、被害を防止した先進事例もある。

県西部を流れる天竜川の佐久間ダム(総貯水量3億2685万立方メートル)。電源開発(Ｊパワー)が管理する巨大発電専用ダムだが、国は2008年、総貯水量のうち洪水調整に必要な容量を同社から買い取ることを決めた。浜松河川国道事務



官民が連携して堆砂問題解決に当たることになった佐久間ダム＝8月上旬、浜松市天竜区と愛知県豊根村の境界付近(本社ヘリ「ジェリコ1号」から)

所の担当者は「実際に買い取る容量を交渉中で、今後は恒久堆砂対策にも国が関わることになる」と説明した。管理する中部電力と

同じ天竜川上流の泰阜ダム(同1076万立方メートル)でも1985年以降17年以上かけ、

国、長野県、同県飯田市が周辺の治水対策を完成させた例がある。同市の担当者は「それまで頻発した水害の責任の所在はいつたん棚上げし、関係者同士が住民の生命のため一致した」と述べた。